

ハーモニー



ハーモニーは、調和・一致・和合等を意味します。男女が人間として生き方において、また社会のあらゆる分野における活動において、対等の立場に立って調和してゆこうという意味が込められています。

会の発展的解散を迎えて

平成19年に創刊した“ハーモニー”は令和元年を迎えながら今回が**最終号**となりました。社会情勢と同様に当市民会議も少子高齢化が進み、継続が困難になりました。この活動の前身時代も含めると20年余り…。当初は「男女共同参画って?」「ハーモニー?」「女のくせに・男のくせに」等々、男女共同参画の意識はなかなか浸透されませんでした。しかし長い時間をかけ会員個々が思いのこもる数多くの活動を積み重ねてきたので、少しずつ理解されてきたと感じています。

思えば平成20年「実測！ニッポンの地域力」著者**藻谷浩介氏**（現日本総合研究所主席研究員）をお招きし「**元気な南魚と女性パワー**」と題し画期的な講演会を開催し、グローバルな経済を学



藻谷浩介氏 講演会の様子



佐々木常夫氏
講演会の様子

んだ事。26年には市制施行10周年記念でワークライフバランスのシンボリックな**佐々木常夫氏**（東レ経営研究所特別顧問）から「**家庭、地域、組織でのリーダーの生き方**」に多くの力を頂きました。この先、男が女がと構える前に人間として家庭、職場、どんな時でも性別にかかわらず尊重し話し合える日が**ずうっと**続くことを信じています。これまでのご支援ご協力に感謝申し上げます。
会長 豊田 春美

「南魚沼市男女共同参画推進市民会議」産声までの記憶

2005年に「南魚沼市に男女共同参画推進市民会議という組織をみんなで作っていませんか」と当時の社会教育課長にお声をかけていただいた。とても素晴らしい提案でしたが、その時集まったメンバー全員何をしたらいいのかかわからず、みんなで腕組み、頭を傾げるばかりでした。

「いきなり市民会議を作るのは大変なので、まずはそのための準備会を立ち上げましょう」と有志を募り、女性財団で企画されていた研修会で学びました。当時新潟県立大学の教授をされていた、石川伊織先生を紹介していただき先生のご指導の下で、私たちが考えているよりはるかに男女共同参画が奥深いものだと知りました。大きく捉えると私たちの歴史、価値観を根底から変えなければならない、しかしいきなり多くの変化や改革を求めるのは無理です。男女共同参画は『女も男も幸せになるために必要なものだとみんなにわかってもらおう。焦らずゆっくり南魚沼市に男女共同参画の種を育てよう。南魚沼市に合った活動を少しずつやって行こう』とメンバーと話し合ったことが懐かしく思われます。

鈴木 智子

私と「男女共同参画推進市民会議」

発足前の町議会当時、行政の回答は「時期尚早」とのこと。その後合併が進み、行政と共に推進。当時としては県下でも特徴ある市民会議でした。現在は5年毎に見直される「基本計画」が第3次施策までになりました。発足当時は4部会があり（地域づくり・健康福祉・子育て教育・職場労働）それぞれ地域の皆さまと共に楽しく活動してきたことが懐かしく思い出されます。そして今は、当時よりずっと大きく推進されてきていると思います。

少子高齢化の今、活力ある地域を維持するため「思いやり、支え合い」を大切にしたいうえ、個性や能力を発揮できる“**ずうっと住みたい南魚沼市**”にまい進する思いです。

長きにわたりご支援頂き感謝に堪えません。

初代会長 森山幸子

こんなこと
あんなこと



- 美味でワンコインの“ハーモニー汁”販売
市民まつり
- 男女共同参画の意識調査アンケート
- むだのないエコ料理教室
暖かい災害食づくり料理講座
- 寸劇・朗読劇・紙しばい・各地へ出前講演
- 新潟県推進「ハッピーパートナー企業登録」
活動支援・ワークショップ
- 病後子育て・セクハラ・虐待・
数々のDV等様々な講座
- 中越地震から学び得た多くのこと
～女の目線・男の目線～
- 災害いざというとき
～地域のかで身を守る～ 災害マップ作り

“**ひとひと女と男みんなでつくろう！ずうっと住みたい南魚沼市**” これをスローガンにハーモニーは活動をしてきました。女性も男性も共に生きやすい社会＝誰もが暮らしやすい社会です。活動内容も幅広く、どこからどう活動をしたらいいのか。会長より「会員さんとどんな活動をしたらいいのか、話し合いたいんだけど」と相談されました。ワークショップという手法を使い、思いを形にしていきます。理念を持つことが大事なんです。グループで何かスタートする時、やりたいことばかりが先走ります。「どうになりたい」ってことが見えなくなります。ハーモニーはみんなの中に共通理念であるスローガンがずっとありました。だからこそ、長く活動できたんだと思います。ここに関わることができて様々な経験ができました、ありがとうございました。

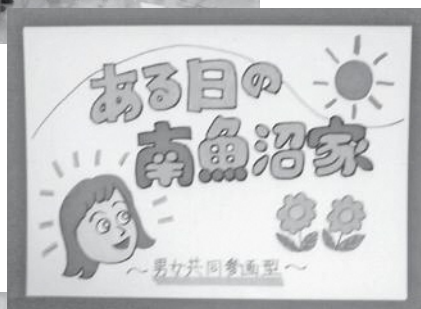
企画運営委員 K

市民会議の発展的解散に想う

平成12年ごろ新潟県女性財団の方が大和地区に来られ「男女共同参画について説明がありますので夫婦で参加してください」の依頼から数回にわたり30～40名の集会が開かれた。その後市町村合併、1年の準備期間があり平成18年6月3日正式スタート！

市役所職員構成の庁内会議と市民会議を組織し、市全体の男女共同参画について協議検討し、市長に意見具申した。市民会議では具体的な活動を4部会（地域づくり、健康福祉、子育て教育、職場労働）として、各部会の活動を市民に呼びかけてきた。13年間の思い出はつきません…。

池田実好・池田節子



平成30年度 ハーモニー活動報告

- 4/ 1 ハーモニーワークショップ
＜ハーモニーでやってみたい事？＞
- 6/ 2 平成30年度総会
会員研修会 ワークショップパート2
- 7/ 1 「ハーモニー」12号発行（市内全戸配布）
- 11/ 7 新潟女性財団セミナー参加
講師 菊野麻子さん
＜伝わる話し方&上手な聞き方＞
- 11/15 地域づくり協議会事務長会議説明出席
「地域の構成委員に女性の参加を」
- 3/31 新潟県女性財団理事長出張講座
阿部愛子理事長
講演「少子高齢化社会の自分らしい
生き方・職場環境」

“^{ひと}女と^{ひと}男みんなでつくろう！ずうっと住みたい南魚沼市” このフレーズに共感し入会して10年になります。月1回の夜の会議やグループごとに計画した行事で多くの方と知り合いになり楽しみに参加しました。

特に「エコを意識した料理教室」では男性も含め大勢の参加者と交流出来ました。八色の森市民まつりの“ハーモニー汁”販売では味も値段も好評、その上横断幕やのぼりで会の存在と活動を知ってもらう事が出来たと感じました。一人ひとりが置かれた立ち場所で、男女共同参画に対する思いには違いがあるだろうと思います。早い時期から市民の目線に立ち、活動を続けてこられた先輩に感謝します。また有意義な経験ができたことに感謝します。

企画運営委員 大網 エツ子

種を蒔くということ

南魚沼市男女共同参画推進市民会議（通称ハーモニー）への取組みについては、旧大和町時代から南魚沼市に至るまで行政の担当としてかつ、会員として係ってきた。無論この活動は数年で結果が出るものではなく延々と続くものであり、ある一面とても厳しいものである。しかも「男女共同参画」という意識にも濃淡がありイメージも異なる。そんな会員の最大公約数を探りつつもここに組織として活動に区切りをつけることになった。“未だ道半ば”であるが、この取組みに携わって来られた皆さん、そして市民の皆さんの心にこれからの男女共同参画の在り方について“種を蒔いた”のではなかろうか。そして、いつの日かこの様な活動があったことが語られるならば本望である。



井口光雄

提言 自分の「姓」について

父はいつも言っていた。「秩子は北大路の墓には入れないんだ」2人の弟は入れるがと続く。私は墓に入れるかどうかではなく名字が変わるのは嫌だと思い続けてきた。だから名字を変えず同じ家に住むことが「結婚」だと考えていた。学生の時同居を始め、友人には「結婚しました」と報告した。

大学卒業後女学校に就職、職場に行き、聞かれたのは「旧姓は?」「変えるつもりはありません」の準備がなかった私は「これから変えます」と言ってしまった。その後深く反省し「変える気はなかった」と言い続けてきた。その結果3人の娘は、抵抗にあいながらも姓を変えないでいる。30年たったある時、夫が「30年黒岩で来たから次の30年は北大路で行こうか?」「それはいい考え」と言えなかった、また後悔した。何故? 特殊な名前だから? やはり変えておけばよかった、また30年したら黒岩に戻ればいいのか。そうだ、今から変えてもいいかな?

黒岩 秩子



最終つぶやき

性別や年齢を理由に医学部入試で不合格にされた元受験女性が3医大を提訴したニュース。不正入試問題発覚後、3大学から合格通知が届いたとは驚きだ。東京医大を発端とする医学部不正入試問題。その東京医大医学科の今年の合格率、女子20.2%、男子19.8%。去年は女子2.9%、男子9%。女性の合格率が衝撃的に上がり男性とほぼ同じ。今年に公正な入試の証か?

失言続きの国会議員発言「お子さんやお孫さんに子どもを最低3人くらい産むようにお願いしてもらいたい」。これに対する情報番組MCの真矢ミキさんが的を得たコメントに同感。『今回の発言も相当な数の方を傷つけてるけど本当に一回、待機児童で困っているお母さん方、婦人科で不妊治療している方の数、一回ドアを開けて見てみてください。どれだけ女性は厚い壁が何枚あるんだと、そこを直してくれるのがあなたたちのお仕事なんです、って思います』

